

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和4年度 第4回相模原市総合計画審議会		
事務局 (担当課)	政策課 電話042-769-8203 (直通)		
開催日時	令和5年1月23日(月) 18時00分～19時30分		
開催場所	相模原市役所本庁舎本館2階 第1特別会議室		
出席者	委員	10人(別紙のとおり)	
	その他	0人(別紙のとおり)	
	事務局	6人(総合政策・少子化対策担当部長、政策課長、外4人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	(1) 総合計画進行管理2次評価結果について (2) その他		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり

三橋政策課長の進行により議事に入った。

(1) 総合計画進行管理2次評価結果について

(会長) 事務局から説明があったとおり、審議会としての最終的な成果物が資料1ということになり、本日は修正すべき点などについて審議いただくことになる。順番に意見等いただければと思うが如何か。

(齋藤委員) コンパクトによくまとめていただいたという印象である。

(横田委員) 「2. 各施策に関する評価・指摘事項」では、施策毎の枠内のタイトルで“施策の進捗状況に関する評価”としているが、「3. 総評」のリードでは“達成状況”、枠内のタイトルでは“実施状況”としている。使い分けの考え方を確認したい。

また、2と3の関係性をどのように整理しているのか。

(事務局) 進捗状況等の言葉は意図して使い分けているわけではないので、今後整理させていただきたい。

また、2と3の関係性については、2は施策毎に焦点を当てて評価したもの、3は各施策に共通するようご指摘を総評という形でまとめさせていただいたものである。

(村田委員) すごく丁寧にまとめていただいて、わかりやすいなという印象である。

ただ、細かい点ではあるが、6ページの施策31に「EBPMを進めてもらいたい」とあるが、専門用語については括弧書きなどで補足していただきたいと思う。

(会長) 指摘のとおり市民の皆さんが分かるように表現していただきたい。EBPMは“証拠に基づく政策形成”という意味で最近内閣府がよく使用している言葉であるが、PDCAなども公表するときは丁寧に説明していただきたい。

(出雲委員) 今回の進行管理は、1次評価で達成度が低かった施策を中心に、審議会の評価が行われているということで審議が始まっているのにもかかわらず、「2.

各施策に関する評価・指摘事項」では冒頭の施策から「順調な施策推進が図られている」という評価になっており、少し矛盾を感じる。

1次評価では低かったが、2次評価としては順調であるという評価になりうるという点を補足した方がよいのではないか。

(会長) 確かに指摘のとおりであり、これは何か説明が必要と感じる。

(出雲委員) 例えば、事務局案では、その説明・理由づけと読める記載が「3. 総評」にある。まず最初に総評を行い、次に施策1というように各施策の評価をしては如何か。

(事務局) 指摘のとおり急展開している印象を与えてしまっており、表現ぶりは修正が必要かと感じる。

今年度の進行管理では、1次評価ではあくまで成果指標という数値的な部分について確認をし、その結果達成の度合いが低かったものを中心に、2次評価で審議いただいたところである。

ただ、2次評価では、やはりコロナ等の外的要因がある中においては、施策の進捗状況は、比較的順調とあることが確認できたということであろうと思うので、その意図が伝えられるよう、2ページの「1. 相模原市総合計画審議会における評価について」を補足する、若しくは指摘のとおり、総評を前段に移動し、全体の流れがつかめるような形で修正することで、対応して参りたい。

(会長) 最初に達成度が低いと言いながら次で順調だとすると、理解されにくいところもあろうかを感じる。ただ、総評を前段に移動すると、各論で終わりになってしまうため、全体のバランス等考えて、修正をお願いしたい。

(須田委員) 先ほどのEBPMと同様の話であるが、私も知らない言葉が幾つかある。、6ページのデータヘルス計画というのは、これは誰が作る計画なのかも含め、その意味がわからなかった。EBPMと同様に注釈をつけていただきたい。

(宮津委員) 言葉の確認をさせていただきたい。施策10に“AIなどの新しい技術も取り入れた取組”とあるが“など”とは具体的にどのようなことを想定しているのか、もう少し例示して分かり易くこともできるのではないかと考えるが、事務局の意図を確認したい。

(事務局) 参考資料2の施策10、健康づくりの推進の左欄を確認いただきたい。

これまで審議会から頂いた意見の全体像を示しているが、「新しいコミュニケーションツールと健康施策との連携充実（AIの活用など）の検討を進める」ことについて意見を頂いており、この部分を抽出させていただいた。

具体的な取組としては、その前段にあるLINEアカウントによる市民への直接の情報発信のように、SNSといったデジタル技術を含んで、“AIなど”としてまとめたところである。

(宮津委員) やはりわかりづらいと感じる。具体的に示した方がよい。

(会長) 新しいコミュニケーションツールの活用ではどうか。新しいコミュニケーションツールと健康施策の連携充実としたほうが分かりやすいと感じる。

(朝山委員) 事務局案については、わかりやすくまとめており、このとおりで異論はない。

(副会長) 確認させていただきたい。本日の資料は、資料1、参考資料1、参考資料2となっており、参考資料1については委員の名前が見え消しで入っている。審議会の場合、原則、当日机上配付された資料は基本的に公開と承知している。議事録の公開とも関連する話だと思うが、どの範囲が公開されるのか。

(事務局) 進行管理としては、本市のホームページに進行管理のページを作成し、審議会の成果物という意味での資料1と各施策の評価シートを掲載する予定である。

また、審議会に関連する資料としては、原則として発言者入りの議事録をホームページに掲載するほか、会議資料（資料1、参考資料1、2）については市行政資料コーナーで配架することとなる。

なお、審議会における個人名の公表などについては、特段の事情がある場合、審議会での議を経て、非公開とすることもできる。

(副会長) 評価審議に、委員が時間を割き、結果成果物は何なのかと考えた場合に、参考資料1も大事な成果であり、そこから資料1の報告書に至ったのだと思う。

少なくとも資料1だけでなく参考資料2に関しては、まさにこれこそが成果物ではないかと思っており、個別具体的なことを特定して、差し障りようなことがないようであれば、参考資料2に関しても成果物として公開することがよいのではないか。

(会長) 参考資料2については、評価のバックデータであることから、副会長の意見

の通り、審議の経過と該当する施策のような形で、審議会の報告書の資料編として附属しても全く不思議ではない、むしろその方がよいとも感じるが、どうか。

(事務局) 事務局としては不都合はない。

(会長) 皆様よろしいということであれば、参考資料2については、報告書の参考資料のような形で議論の経過として添付し、併せて成果物というような形でまとめさせていただきたい。

(隅河内委員) 事務局の方で丁寧にまとめていただいております、異存はない。

(会長) 一通り委員の意見をいただいたところであるが、さらに振り返っての指摘などあれば、お伺いしたい。

(齋藤委員) 同じ文章が各施策の評価で使われているが、“順調な施策推進”と“適切な施策推進”と異なる表現になっているところがある。

(事務局) ニュアンスの違いというところではあるが、少し意識して使い分けている。順調にしっかり予定通り進んでいるようなものは言葉通り“順調”を、少しトーンを下げ、順調とはいいがたいが、厳しい状況下においてもこの進み具合は適切なレベルであろうというようなものは“適切”と、ニュアンスの部分で意識をさせていただいたという次第である。

(会長) 記載の間違いではないということであるが、順調と適切がどちらが上というのはわかりづらい。度合いを分かり易く表した方が良いのではないか。

(横田委員) 3点意見したい。

施策14について“産業界のニーズも踏まえた施策推進”とあるが、背景の説明がない中では、少し唐突な感じを受ける。

次に、ここだけに“各種取り組みの実質的な進捗については成果指標の進捗状況のみでは把握しきれないため”という一文があるが、原文の通り“進捗”ではなく“達成度”としたほうがよい。

また、施策33について“変動に関する意識は高まっていると思うが”とあるが、成果指標のアンケートの実績値が低下しており、温室効果ガスの発生量や排出量についても市況の低減による影響も見込まれると思う。改めた方がよいのではないかと感じる。

(隅河内委員) 修正するかも含めて疑問に思っていることがある。文書で質問したと思うが、施策6の成果指標2について「地域住民による相談窓口」がなぜボランティアセンターの数なのか、既存のボランティアセンターが地域住民による相談窓口としてふさわしいとか、ボランティアセンターができるか通り設置されれば、各地区に地域住民による相談真備窓口が確立されるのか。その理解がどうなっているのか教えていただきたい。

(事務局) 頂いた書面については、こちらを質問、疑問等として捉えておらず、「疑問であるから、場の人材確保の充実強化の検討をしっかりとってください」といったようなご指摘ご意見をいただいたものと、失礼ながら、理解をしていた。今の発言のとおり、質問ということであれば、担当課とも確認をさせていただいた上で、お答えさせていただきたい。

(会長) 隅河内委員、それでよろしいか。

(隅河内委員) そもそも、成果指標が相談窓口の機能充実でボランティアセンターの数になっており、順調に設置されているということである。住民のボランティア意識を高めるということであれば、それで全然構わないが、そもそもなぜ相談機能の充実がボランティアセンターの設置になるのか。

ボランティアセンターが設置されたことよりも、ボランティアセンターにきちんとした相談機能があるということを証明しなければ、相談機能の充実が図れたと言えないのではないか。ボランティアセンターは人材の調整だけという認識であり、ないのであれば、ボランティアセンターに相談機能を設けるというようなことを提案したい。

(事務局) 指摘の点については今後健康福祉局と調整してまいりたい。

(会長) これまでの意見を整理すると、調整事項もあるが資料1、参考資料2を評価結果とするというような形になるかと思いますが、よろしいか。

それでは議題1の審議を終了とする。

(2) その他

今後の評価結果の取扱等について、事務局から説明を行った。

(牛山会長) 本日の議事は終了とする。

以上

相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	牛山 久仁彦	明治大学政治経済学部教授 地域行政学科長	会長	出
2	長野 基	東京都立大学都市環境学部都市政策科学科准教授	副会長	出
3	朝山 あつこ	認定 NPO 法人キーパーソン 21 代表理事		出
4	出雲 明子	明治大学専門職大学院ガバナンス研究科教授		出
5	隅河内 司	田園調布学園大学人間福祉学部教授		出
6	横田 樹広	東京都市大学環境学部環境創生学科教授		出
7	齋藤 祐子	公募委員		出
8	須田 理	公募委員		出
9	宮津 敏信	公募委員		出
10	村田 大輔	公募委員		出